

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ドン・キホーテが白金に進出！猥雑感と高級感のミックスMD」
- 2) 「見た目も食感も“ふぐの皮”金沢の食品研究会社が海藻で再現」
- 3) 「政府、“トイレ大国日本”を積極アピールへ」
- 4) 「AglC、電子回路が書ける銀ナノインクペンに続き“消せるペン”を開発」

1) 「ドン・キホーテが白金に進出！猥雑感と高級感のミックスMD」

ドン・キホーテは、東京・白金台に新業態「プラチナ ドン・キホーテ白金台店」を5月29日開く。「驚安感、猥雑感、高級感のミックス」をテーマにした実験店舗で、都内有数の高級住宅街に進出する。目黒通りに面した同店は、名前の通り、白とゴールドを基調にしており、既存店とは異なる落ち着いた外装が特徴だ。スタッフのユニフォームも一新し、既存店と差別化している。

売り場は2フロアで933平方メートル。取扱品は食品、生活雑貨、消耗品のカテゴリーを絞り込む。食品売り場には、三重県の松坂牛専門店、朝日屋が初のテナントショップを開設し、これまで本店やネットでしか購入できなかった高級和牛を対面販売する。また店内調理の惣菜や弁当、低糖質のふすまパンなども販売する。既存店と同じく24時間営業する。

安さと高質感のミックスは、今消費者に最も求められているカテゴリーだと思う。ユニクロや二トリの銀座出店を見ても、意外な場所への出店で従来とは違うターゲットにもアピールすることができるし、「この場所でこの価格」というギャップが消費にもつながると思う。ドン・キホーテはこれまでの店でも店内調理に力を入れており昔とはイメージも変わってきていると思うので、新たに誕生する店がどのように地域に受け入れられていくのが注目したい。

2) 「見た目も食感も“ふぐの皮”金沢の食品研究会社が海藻で再現」

金沢で食品の研究開発を行う「日本海藻食品研究所」が5月11日、海藻を使った「ふぐの皮」もどきの商品開発に成功したと発表した。

ふぐの皮はコリコリとした独特の食感が特長で、湯引きしてポン酢やネギとあわせて「てっぴ」として提供されるのが一般的。同社は、独自のノウハウを持つ海藻の加工技術を用い、食感の異なるおからを練りこんだ透明の海藻シートと、イカ墨を練りこんだ黒い海藻シートの2種類を貼り合わせることで、食感と見た目を忠実に再現した。

同社の白石良藏会長は「ふぐの皮は50グラムで300円ほどする高価な食材だが、この商品の材料費は1人前でわずか5円程度。同様に海藻で作った『ふぐ刺し』と『ふぐ皮の煮こごり』を合わせても、数百円で提供できる」と話す。今後、食品会社や飲食店へ技術提供を行う予定だという。白石さんは「本物と違い加熱しても食感が失われないので、代用品としても別の新しい食材としても活用できる。サラダのトッピングなどで家庭でも気軽に使ってもらえるのでは」と期待を込める。

同社は、おからや海藻を使ったユニークな商品開発で知られる。これまでに「カキもどき」「ウナギのかば焼きもどき」「白子もどき」など40種以上のもどき商品を開発。そのいずれも、本来なら廃棄される食材を活用し、製造に特別な設備が必要ないのが特長。白石さんは「食べ物の味は脳の先入観に左右される部分が多い。現物と似せることで先入観を取り除き、食事制限などのさまざまな事情で実物を食べられない人にも楽しんでもらえれば」と話す。「食べた人の驚きと喜びの顔を見るのが一番の励み。今後も、世に出回っていないもどき商品を開発していきたい」と笑顔を見せる。

もどき商品は高価な食材を安価で提供するという利点の他に、食事制限などで食べられない人への対応としても需要があるようだ。以前から紹介しているえんげ食などに加えて、こういったものが増えることで食の楽しみが膨らむことに期待したい。

3) 「政府、“トイレ大国日本”を積極アピールへ」

12日、政府が成長戦略に“トイレ”を活用することを検討中であるとジャパン・ニュースが報じた。輸出促進のため、家電製品の国際規格の取得を支援することや、日本のトイレの快適さを海外にアピールする動画の作成、国内の国際空港に最先端のトイレを整備することなどが例として挙げられている。

まずは国際空港への最先端トイレの整備を検討しているとのことだが、その先行的な例がTOTOが成田空港に先月オープンした「ギャラリーTOTO」だろう。そこでは、同社の「ウォシュレット」を実際に使用することができることとQuartz、および先月のワシントン・ポスト（WP）紙の記事が取り上げている。

WP紙は、「日本は訪れた外国人に、世界一流の日本のトイレ文化を経験してほしいと思っている」と語る。またこの「ギャラリー」については、訪れる人たちに自国の技術と、丁寧なおもてなしの両方を印象付けるためにこれまでにないやり方を試みようとしているものであり、TOTOは「外国人旅行者に“日本のトイレ文化”と技術を経験する機会を提供することで、海外販売拡大に役立つことも期待している」と語ったと伝える。

また、WP紙は日本のトイレ文化は、注目に値するものだ、とも断言しており、公共の場所のトイレがとても清潔であることや、ベビーチェアや傘用フックが設置されていること、子供用の小さな便器や低い洗面台が用意されていることなど、配慮が行き届いていることを伝えている。家庭においても高機能なトイレが普及していると伝え、日本人が海外旅行をするときには、どう思わざるを得ないか、と逆に想像している。

インターナショナル・ニューヨーク・タイムズ（INYT）紙によると、アジアや中東、またヨーロッパに比べて、アメリカでは温水洗浄便座の普及は進んでいないようだ。おそらく大多数の、温水洗浄便座を使用したことがない読者に向けて、記事はその魅力を熱く語っている。

ハイテクな、便座の温かい温水洗浄便座のせいで、普通のトイレではもうすっかり駄目になってしまったと私が言うと、大げさに言っているように聞こえるかもしれないが、そうではない。あなた方が温水洗浄便座なしでどうやっているのか、私には分からない、と記事は切り出している。

2年前にホテルで初めて温水洗浄便座を体験した際には、トイレから出たくなくなった、と筆者は語っている。その後すぐに自宅用に購入したそうだ。今では、スマートフォンと並んで、なくてはならない、お気に入りの機器になっているという。

アメリカの温水洗浄便座販売サイトの運営者は、同紙に、「たしかに、これが変なものだと考える人たちはいます」と語っている。しかし、一度試せば意見が変わることを確信しているので、最近、サイトでは返金保証を始めたという。「商品が返品されたら、再びそれを売ることはできません。ごみにしなければなりません」「けれども、試してみれば、皆大好きになるのです」と語っている。

日本のトイレと言えば国内の評価はもちろん、国外からの評価が近年目に見えてきた。家電量販店で温水洗浄便座を購入する外国人観光客も珍しい光景ではない。商業施設などのトイレが綺麗なのは日本人からすると当たり前のことかもしれないが、これも海外から見ればひとつの日本の魅力であるといえる。

4) 「AglC、電子回路が書ける銀ナノインクペンに続き“消せるペン”を開発」

東京大学発のベンチャー企業AglCは電気を通す銀ナノインクを使った事業を展開しており、銀ナノインクマーカーペンやインクジェットプリンタを販売している。そもそも回路は普段はあまり馴染みがないもの。冷蔵庫や電子レンジの見えないところに収まっている。

このAglCの技術は、既存品の代替やコストダウンなど実利用的な面よりも、「電気をみんなのものに」ということを意識して開発されている。つまり、身近に感じてもらうというスタンス。

家庭のプリンターで印刷でき、回路を描くのにも専用のソフトはいらない。ペンで手書きできるくらいなので、PhotoshopやペイントでもOK。電気が誰でも簡単に使える1つのクリエイティブツールになる。

このAglC 導電性インクペン（1200円）は、2014年9月12日（金）にAmazonで一般発売された。また、子ども向けの学習キットも現在制作中。はんだ付けなどの作業がないので、安全に簡単に楽しめる。

AglC はその後、導電性の銀ナノインクで書いた線を簡単に消す技術を開発し、銀ナノインクペン「AglC Circuit Marker」と消しペン「AglC Circuit Eraser」をセットにして「AglC Erasable Circuit Maker」として発表した。

AglCのこれまでは銀ナノインクでいったん書かれた回路を修正できないことが問題だったが、消す技術を開発したことで、鉛筆と消しゴムを使うように、簡単に回路の修正ができるようになった。これは迅速かつ低コストでプロトタイプの開発が行えるようになることを意味する。AglC Circuit Eraserの使い方は非常に簡単で、ペンのキャップを外して、銀ナノインクで書かれた回路の消したいところをなぞれば、即座にその部分が消えて電氣的に遮断される。Kickstarterでは、AglC Circuit Eraser単品を10ドル、AglC Circuit Markerと1本ずつセットにしたものを25ドルで入手できる。出荷開始は2015年3月の予定だ。

電気回路は学生時代に学んだ「直流回路」や「交流回路」など難しいイメージや専門的知識が必要なイメージがある。それが子供でも簡単に電気回路を書いたり消したりできるようになれば難しいイメージはなくなり、身近なものになると感じた。

また、紙に書ける点から建築模型などに組み込む事で簡単に照明計画など3Dでイメージできるようにするのではないかと思った。ペンで書いた回路の上にボタン型電池とLEDを載せ、紙を曲げてボタン型電池のもう一方の面にインク部分をくっつければLEDを点滅できるようなので、回路だけではなくてそれに合わせたLED照明のバリエーションも欲しい。